



平成27年11月26日

東京都千代田区四番町5番地3  
科学技術振興機構（JST）  
Tel：03-5214-8404（広報課）  
URL <http://www.jst.go.jp>

## 「世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス） 推進プログラム」採択拠点の決定について

JST（理事長 濱口 道成）は、平成27年度の新規事業である「リサーチコンプレックス推進プログラム」における採択拠点1件およびFS（フィージビリティスタディ）<sup>注1</sup> 拠点3件を決定しました（別紙1）。

リサーチコンプレックスとは、地域において集積している研究機関、企業、大学などがそれぞれの活動を融合させ、世界の注目を集める、異分野融合による最先端の研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的・統合的に展開するための複合型イノベーション推進基盤です。本プログラムでは、5年後、10年後からその先に実現すべき地域の姿や社会的価値をビジョンとして描き、その実現に向けたリサーチコンプレックスの取り組みを支援し、また、地方創生にも資することを目的としています。

本プログラムは、平成27年7月23日（木）～9月15日（火）まで募集を実施し、10件の応募がありました。今回採択された拠点は、原則として5年度（FSは来年度末までに検証後に採択可否を判断）の支援期間に地域内外の研究開発資源を統合的かつ有効に活用するためのマネジメントシステムを構築・運用することで、地域の優位性を最大限に活かした新事業や新産業、および雇用の創出を目指します。さらに、リサーチコンプレックスの成長・発展を通じて将来的に新たなプレイヤーを持続的に呼び込み発展する体制の構築を目標とします。

本プログラムの詳細については、下記ホームページを参照してください。

URL：<http://www.jst.go.jp/rc/index.html>

注1）FS（フィージビリティスタディ）

リサーチコンプレックス構築に向けた計画の実現可能性などについて検証し、計画や戦略の具体化・修正などを行います。

### <添付資料>

- 別紙1：「リサーチコンプレックス推進プログラム」 審査結果
- 別紙2：「リサーチコンプレックス推進プログラム」 採択拠点の概要
- 参考1：「リサーチコンプレックス推進プログラム」の概要
- 参考2：「リサーチコンプレックス推進プログラム」アドバイザリーボードメンバー一覧

### <お問い合わせ先>

科学技術振興機構 イノベーション拠点推進部 地域イノベーショングループ  
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町  
大塚 進（オオツカ ススム）、大嶋 則和（オオシマ ノリカズ）  
Tel：03-6272-4732 Fax：03-5214-8496  
E-mail：[rc@jst.go.jp](mailto:rc@jst.go.jp)

## 「リサーチコンプレックス推進プログラム」審査結果

## ＜採択拠点＞

課題 No.	リサーチコンプレックス名	都道府県又は 政令指定都市名	中核機関名	備考
1	健康“生き生き” 羅針盤リサーチコンプレックス	兵庫県 神戸市	国立研究開発法人 理化学研究所	採択

## ＜F S 拠点＞

課題 No.	都道府県 又は 政令指定 都市名	中核機関名	F S 選定理由
1	川崎市 神奈川県 横浜市	慶應義塾大学	川崎市殿町地区において、大学・研究機関や民間企業の研究拠点が集積しつつあり、リサーチコンプレックスとしてのポテンシャルが評価された。医療・ライフサイエンス関係の企業や研究機関が集積しつつある地域の強みを踏まえ、関係分野の世界の研究開発動向を調査・分析するとともに、中核機関を中心とした同地区における教育研究活動の実施体制を構築すべく、リサーチコンプレックス実現に向けた構想立案へのチャレンジを認める。
2	京都府	公益財団法人 関西文化学術 研究都市推進 機構	けいはんな中央エリアにおいて、民間の力により多くの企業の研究開発部門が集積しつつあり、リサーチコンプレックスとしてのポテンシャルが評価された。脳機能研究などの地域の強みを踏まえ、関係分野の世界の研究開発動向を調査・分析し、関係企業・研究機関を強かに巻き込んでいくマネジメント体制を構築すべく、リサーチコンプレックス実現に向けた構想立案へのチャレンジを認める。
3	北九州市	公益財団法人 北九州産業学 術推進機構	ゼロエミッションを目指した資源循環型社会への取り組みなど、ソーシャルイノベーションに関する地域の取り組み実績があり、北九州学術研究都市における大学などの集積についてリサーチコンプレックスとしてのポテンシャルが評価された。この強みを生かし、ソーシャルイノベーションの実証実験フィールドとしての世界的優位性を高めるための戦略を明らかにすべく、リサーチコンプレックス実現に向けた構想立案へのチャレンジを認める。

## 「リサーチコンプレックス推進プログラム」 採択拠点の概要

中核機関：国立研究開発法人 理化学研究所

拠点名：「健康“生き生き”羅針盤リサーチコンプレックス」

世界に先駆けて超高齢化社会に突入している日本では、長く元気に活躍できる社会の実現が期待されています。そのためには高齢者だけではなく、壮年、若年からの健康維持や健康増進が重要です。私たちの周りには、さまざまな健康情報があふれています。しかし、今の自分に何が最適な選択なのか、その選択によって将来の自分の健康状態がどうなっていくのかを予測することは非常に困難です。これは、人間の健康というものが、食事、運動、精神状態、睡眠、環境、遺伝的背景などさまざまな要因により影響を受け、日々刻々と変化するものであり、生体内の反応は分子レベル、細胞レベル、全身レベルをまたいで起こるため、これらを総合的に理解するのが非常に困難であるためです。

「健康“生き生き”羅針盤リサーチコンプレックス」では、より正確な健康維持・増進への指針、つまり「羅針盤」の提供を目指します。そのために、先端医療技術の研究開発拠点「神戸医療産業都市」に、理化学研究所および国内外の大学・研究機関で中心的に活躍している研究人材を結集して、ライフサイエンス、ナノテクノロジー、計測科学、デバイス、コンピューター科学を融合し、“ヒト”に関する解析データなどの統合的な理解を進め、将来の自分の健康状態を予測するために必要なコンピューター上での「仮想自身」の構築を、さまざまな業界と連携し、推進していきます。

この取り組みを通して得られた新たな知見やデータは、健康関連産業の大きな基盤を形成し、新たなサービスや製品など、さまざまな業界への波及が期待されます。同時に新しいビジネスアイデアを創出、速やかに実現へ向かわせるための仕組みや事業家の育成システムの構築も行い、「健康科学に基づいたビジネス」の国際的拠点となるべく全力をあげて取り組みます。



## 「リサーチコンプレックス推進プログラム」の概要

### 1. プログラムの目的

世界に誇る地域発研究開発・実証拠点（リサーチコンプレックス）推進プログラム（以下、「本プログラム」という。）は、平成27年度に新しく始まった支援事業です。

本プログラムは、地域に集積する産・学・官と金融機関が共同で5年後、10年後からその先の実現される地域の姿と社会的価値をビジョンとして描き、国内外の異分野融合による最先端の研究開発、成果の事業化、人材育成を一体的かつ統合的に展開するための複合型イノベーション推進基盤としてのリサーチコンプレックスを成長・発展させ、地方創生にも資することを目的として実施します。

### 2. プログラムの内容

本事業の概要は以下の通りです。

#### （1）支援内容

JSTは、リサーチコンプレックスの成長・発展を促す5つの事業ツールに対する活動を支援します。

採択拠点は、中核機関を中心とし、そこに集積する大学・研究機関や企業などが①異分野融合共同研究開発、②事業化支援、③最先端研究設備の共同利用、④人材育成・共同カリキュラム、⑤推進体制強化の5つの事業ツールを全て活用して研究・事業活動を融合するとともに、リサーチコンプレックス内の交流や情報交換を活性化させ、世界の注目を集める研究・事業の創出、人材の輩出が一体的に実施できる体制の構築、またリサーチコンプレックスを自立的かつ連続的に成長・発展するメカニズムの構築を目指します。

#### （2）実施方法

公募により中核機関（大学、公的研究機関及び都道府県又は政令指定都市が運営・設立に深く関与する法人）から提案を募り、JSTが支援する法人を選定します。選定された法人とJSTが委託契約を締結し、事業を推進します。

#### （3）支援期間

原則として5年度（契約締結日～平成32年3月）

#### （4）支援額

最大7億円／拠点・年

### 3. 選定方法

#### (1) アドバイザリーボード

本事業の評価は、PO 1名とアドバイザー8名で構成する「リサーチコンプレックス推進プログラムアドバイザリーボード」(別紙4参照)が行いました。必要に応じて、研究分野の専門家として、専門委員の意見も参考としました。

#### (2) 評価の手順

形式審査、提案書の査読による書類審査、サイトビジット、提案者のヒアリングによる面接審査の4段階を経て採択拠点を選定しました。

#### (3) 採択における評価項目

- ①ビジョン
- ②目標と計画
- ③推進体制及び運営方針
- ④資金計画
- ⑤リサーチコンプレックスの成長・発展のための方策

**「リサーチコンプレックス推進プログラム」  
アドバイザーボードメンバー一覧**

PO	氏名	所 属	役職
○	結城 章夫	山形大学	名誉教授 (前 学長)
	伊地知 寛博	成城大学 社会イノベーション学部	教授
	受田 浩之	高知大学	副学長 (地域連携担当)
	大塚 玲奈	株式会社エコトワザ	代表取締役
	津田 紘	公益社団法人静岡県国際経済振興会	会長
	出川 通	株式会社テクノ・インテグレーション	代表取締役
	西澤 民夫	日本エスアンドティー株式会社	代表取締役
	野長瀬 裕二	山形大学 大学院理工学研究科	教授
	野々村 俊夫	独立行政法人中小企業基盤整備機構 四国本部	ものづくり支援 チーフアドバイザー

(所属機関、役職は平成27年11月26日時点)